

「なるほど」と感心させられたお話

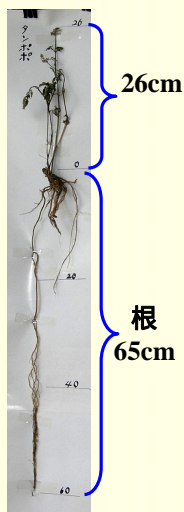
あるご婦人から聞いたお話です。お仏壇の香炉の残り灰のことでした。ご主人を亡くされてからはお仏壇へのお給仕が日々欠かせなくなったそうです、お仏壇の前で手を合わせる事が重なるにつれ、自然に”生きていくパワー”を戴き有り難く思う毎日でしたが、唯一つ気がかりの事があったのです。それは香炉の残り灰でした。お仏壇の灰だから捨てられず、かといってそのままにも出来ず悩んでいた時、友人から鉢物への散布を勧められました。早速主人が大事にしていた植木に施灰(灰は酸性土を中和します)をしたら、すっかり元気になってくれ、亡き主人と新たな出会いをしていると笑みを浮かべて話して下さいました。

タンポポの根の深さ

坂村真民氏の詩のひとつに「タンポポ魂」があります。

踏まれても 食いちぎられても 死にもしない
その根強さ そしてつねに 太陽に向かって咲く
その明るさ わたしはそれを わたしの魂とする

踏まれても、食いちぎられてもへこたれないパワーの秘密の一つに根の深さがあるようです。26cmのタンポポの根は65cmありました。ロビーに展示してあります。見えない処にパワーの秘密が隠されていました。



今月の安楽寺伝道掲示板

耳が聞くのではない

全身が 耳となる

安田 理深